

月刊ウィーン GEKKAN-WIEN

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊29年目 **Nr. 335**

2017年6月号



James Welling 4176(aus der Serie Choreograph, 2014-17), 2015
(c)James Welling, courtesy David Zwirne, New York/London

Kunstforum Wien JAMES WELLING クンストフォーラム・ヴィーン『ジェームス・ウェリング』展 7月16日まで開催



James Welling 0123(aus der Serie Choreograph, 2014-17), 2015
(c)James Welling, courtesy David Zwirne, New York/London



杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 68



筆者が勤務する東京工業大学グローバル原子力安全・セキュリティ・エージェンツト教育院は、グローバルな原子力危機分野において国際的リーダーとして活躍する人材を育成することを目的とした修士・博士貫の学位取得プログラムである。本教育院の幅広い活動の環として、国内外において実習・研修を実施している。先般五月一日〜六日にかけてマレーシアにおいて研修を実施した。参加した学生は、博士課程三年の日本人学生三名と修士課程一年の学生五名(日本人二名、留学生三名)の計六名、院長ドクタッフ名が引率者として同行した。訪問先は、マレーシア国民大学(UKM)、テナガナシヨナル大学(UNITEJ)、マレーシア原子力庁(MNA)、および原子力規制庁(AELB)である。



http://www.dojo.titech.ac.jp/

国立のマレーシア国民大学では、先方の学生六名とともに各自の研究内容についてポスター発表を行い、その後、「リスクコミュニケーション」、「エネルギー安全保障」、および「原子力促進のための能力開発」の三つのテーマについてグループ討論を行った。マレーシア電力公社が運営する私立大学であるテナガ・ナシヨナル大学では、先方の学生六名とともに同様のポスター発表とグループ討論を行った。両大学とも今後の教育・研究に関する東工大との協力について意見交換するとともに、夕食懇親会では先方の学生や職員との交流を図った。マレーシア原子力庁では、研究炉など施設見学や情報交換を行った。当教育院の元二期生が施設見학을担当し、久しぶりに会った同期生や後輩を案内してくれた。原子力規制庁でも施設見学と情報交換を実施した。学生たちは、赤道に近いマレーシアの自然を楽しむ二方向グループ討論や訪問を通して、数多くの質問や意見を述べることで、積極的に学ぶことができたと思う。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の温泉について述べてみたい。ウィーン市街から南へ車で約三〇分に位置する「バーデン(温泉)」はその名が示すとおり、ローマ時代から知られる温泉地帯である。三八度あまりの弱硫黄泉が豊富に湧出する。現在では保健美容、屋内外温泉プールという三つの目的に使われている。屋外温泉プールは町を流れるシュヴェツヒャート川沿いにあり、広大な場所にさまざまな設備が付属している。二〇一〇年にはウィーン十区に「テルメ・ウィーン」と名称を改めて温泉施設が改装オープンした。泉質は弱硫黄泉、二つの広い浴槽、二四のサウナ室とスチームルーム、二千五百の寝椅子があり、六千平方メートルのフィットネス・ゾーンはオーストリア最大規模であり、多くの市民に親しまれている。

一方、木津温泉は奈良時代開設で京都府最古の温泉と伝えられて

いる。京都市内では、右京区の嵐山、左京区の鞍馬、大原、北白川などに温泉があるが、大正時代以降に開かれ比較的新しい。嵐山と大原温泉は弱アルカリ単硫泉、鞍馬温泉は単純硫化水素泉、北白川温泉は天然ラジウム鉱泉で湧出量が関西一位と珍しい。北区の船岡温泉は温泉質ではないが、大正初期に建てられた豪華なしつらえの欄間、タイル、岩風呂、彫像などが文化庁の登録有形文化財に指定されている。近年はボーリング技術の進歩により、地下約千メートルからわき出る天然温泉を使った新しいスパが市中にオープンしている。こうした新しい施設は、温泉ばかりでなく、サウナ、美容などの設備を併設して、市民や客のニーズに添えていることが両市の温泉を共通している。

余談であるが、筆者がウィーン赴任中にかかの地の温泉に入る機会は残念ながらなかったが、京都北白川の天然ラジウム鉱泉には比叡山登山後に利用したことがある。湯船は広くはなかったが身体はよく暖まり、休憩室の話し好きの女将さんが印象的だった。両市の温泉を紹介できた幸運に感謝しつつ、編集部撮影をお願いしたテルメ・ウィーンの写真を掲載させていただきます。



■杉本純 東工大特任教授 前京大教授
元原子力機構ウィーン事務所長 ■